

(2) 太郎右衛門自然再生地で確認された希少種

確認種	希少種の指定状況		昭和15～45年頃 (1940～1970年頃) に見られた種 4			平成8～平成15年度 (1996年～2003年) 確認種 5			生息・生育環境	
	環境省 RDB 2	埼玉県 RDB 3	上池	中池	下池	上池	中池	下池		
類	科	種 1	NO.							
哺乳類	ネズミ科	ホンシュウジネズミ	1		NT2				河畔、水辺、林縁のヤブ等に生息する。	
		ホンドカヤネズミ	2		NT1,2				ヨシ、オギなどに球巣を作り生息する。	
	ウサギ科	キュウシュウノウサギ	3		NT2				食物となる植物が多く、隠れ場所の多い林や草原を好む。	
	イヌ科	ホンドタヌキ	4		NT2				樹林地から田畑及び住宅地近くまで生息する。	
		ホンドキツネ	5		VU				農耕地や森林、原野、集落地が混在する環境を好む。	
イタチ科	ニホンアナグマ	6		EX				森林や灌木林に生息し、巣穴は斜面や大岩、木の根元を利用する。		
鳥類	サギ科	ヨシゴイ	7		VU				夏鳥として渡来し、湿地で繁殖する。	
	タカ科	オオタカ	8	VU	VU(NT2)				アカマツなど大木に営巣し、小鳥類を捕食する。	
		ソシ	9		NT2				低地から山地の樹林地に営巣する。	
		ノスリ	10		(VU)				山地で繁殖し、冬、河川敷などで越冬する。	
		サシバ	11		CR				クヌギなどの大木に営巣し、湿地でカエル等を捕食する。	
	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	12		NT2				川沿いの岩壁等に営巣し、小鳥やカエルなどを捕食する。	
	キジ科	ウズラ	13	DD	EN(VU)				乾燥草原地に生息する。	
	クイナ科	クイナ	14		(VU)				河岸や池沼のヨシ原や湿地環境に生息する。	
		ヒクイナ	15		CR				冬鳥として渡来し、越冬する。水生植物が繁茂した水辺に生息する。	
		バン	16		VU				開放水面を餌場とする。	
		オオバン	17		CR				広い湿地植物帯で繁殖する。開放水面で水草を餌とする。	
	チドリ科	タゲリ	18		(NT2)				冬鳥として渡来し、水田等湿地で越冬する。	
	タマシギ科	タマシギ	19		CR(EN)				広い水田地帯で繁殖・越冬する。	
	フクロウ科	コミミズク	20		(VU)				生態系上位種としてまとまった自然環境に生息し、樹林地の改変などにより生息環境に対する影響が懸念される。	
		アオバズク	21		VU				平地、山地の大木に営巣し、昆虫類を餌とする。	
	カワセミ科	カワセミ	22		NT2				開放水面を餌場とする。	
	ツグミ科	ルリビタキ	23		(NT2)				樹林地に生息する。	
	ウグイス科	ウグイス	24		NT2				ササ藪をともなう低木林、林縁などに生息する。	
		ヨシキリ	25		VU				夏鳥として渡来し、ヨシ原を中心に営巣する。	
アトリ科	ベニマシコ	26		(NT2)				河川沿い、湿原周辺の灌木地、藪地等で繁殖する。		
爬虫類	イシガメ科	イシガメ	27		VU				池等水域に生息する。近年減少が著しい。	
	ヘビ科	ジムグリ	28		VU				林の朽木や落ち葉の下に潜む。	
		ヒバカリ	29		NT2				水辺でカエルや小魚を捕食する。	
クサリヘビ科	マムシ	30		NT2				草地や樹林地でネズミ等を捕食する。		
両生類	アカガエル科	ニホンアカガエル	31		(NT)				周辺に樹林地、草地のある池沼や水田に生息する。	
	ツチガエル	32		NT2					池、水田に生息する。	
アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	33		NT2				水田、草地に生息し水辺周辺の土中に穴を掘り産卵する。		
魚類	コイ科	キンブナ	34		NT2				水生植物のある浅瀬に生息する。	
		ヤリタナゴ	35		EN				河川の下流や支川、灌漑用水、湖沼に生息し二枚貝に産卵する。やや流れのあるところを好む。	
	ドジョウ科	ホトケドジョウ	36	EN	CR				湧き水由来の細流に生息する。	
	ギギ科	ギバチ	37	VU	EN				岩陰や水際植生に潜む。	
	ナマズ科	ナマズ	38		VU				産卵場である水田等浅瀬がある水域に生息する。	
メダカ科	メダカ	39	VU	VU				池や水田など水生植物が繁茂した浅瀬に生息する。		
甲殻類	ヌマエビ科	ヌカエビ	40		EN				比較的清水な池に生息する。	
	イワガニ科	モクズガニ	41		NT2				河川の上流域まで生息し、河口域で繁殖する。羽化後河口周辺海域で成長し川へ遡上する。	
貝類	モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ	42		DD				池、小川に生息。農業、生活排水に弱い。	
		モノアラガイ	43	NT	DD				同上	
	イシガイ科	イシガイ	44		NT2				池沼に生息し、水質の悪化に弱い。タナゴ類の産卵母貝となる。	
		ドブガイ	45		NT2				ヘドロの堆積していないプランクトンの多い止水域に生息する。	
昆虫	セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ	46	NT	NT2				ススキなど、イネ科の草地を幼虫期の食草とする。	
	アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ	47		NT1				堤防などの草地にあるウマノスズクサを食草とする。	
	シジミチョウ科	ミドリシジミ	48		NT1				ハンノキの若齢樹を主な食草とする。	
	タテハチョウ科	ヒオドリシチョウ	49		VU				雑木林等落葉広葉樹林に生息する。	
		コムラサキ	50		NT1				タチヤナギなどヤナギ類を食草とする。	
	ジャノメチョウ科	ジャノメチョウ	51		NT2				ススキ草原に生息する。	
	ヤマモリガ科	オナガミズアオ	52		LP				ハンノキを食草とする。	
	ハナアブ科	ハチモドキハナアブ	53		NT1				クヌギ林を生息環境とする。	
	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	54		CR				樹林地や草地に普通に見られる。	
	ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ	55	NT	DD				大きな人工湖や池沼に生息する。	
	ホタル科	ヘイケボタル	56		NT2				水質、水量が確保された止水に生息し、ヒメモノアラガイなど巻貝を捕食する。	
	アメンボ科	エサキアメンボ	57	NT	NT1					ヨシなど抽水植物がある水域に生息する。
		ハネナシアメンボ	58		NT1					ヒシなど浮葉植物の生息する解放水面の池沼に生息する。
	ミズムシ科	ミヤケミズムシ	59		VU				池・沼に生息する。	
	キリギリス科	エゾツクムシ	60		(NT)					まとまった樹林地に生息する。
		オナガササキ	61		(NT)					日当たりの良いイネ科の草地に生息する。
	コオロギ科	クマコオロギ	62		(NT)				湿性草地に生息する。	
	スズムシ科	スズムシ	63		NT1				草地、樹林地に生息する。	
	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	64		NT2				ヨシ、マコモが繁茂する湿地に生息する。	
トンボ科	ヒメアカネ	65		NT2				水生植物が繁茂する湿地などに生息する。		
クモ類	コガネグモ科	コガネグモ	66		EN				典型的な里山のクモ。山のふもとで日当たりの良い水田や草地があり、餌となる昆虫が豊富であることが条件となる。	
植物	ホウライシダ科	ミズワラビ	67		VU				水田や湿地に生育する。	
	ユキノシタ科	タコノアシ	68	VU	VU					
	バラ科	ナガボノシロワレモコウ	69		NT				水際など氾濫原の植物として、水辺や水田周辺に生育する。	
	トウダイグサ科	ノウルシ	70	VU	NT					
	ヒシ科	ヒシ	71		EN				水域に生育する浮き草である。	
	アリノトウグサ科	ホザキノフサモ	72		EN				止水域の水中に生育する。	
	セリ科	エキサイゼリ	73	EN	CR				水際など氾濫原の植物として、水辺や水田周辺に生育する。	
	サクラソウ科	サクラソウ	74	VU	CR				川岸の低湿原野に生育する。	
	シソ科	ミゾコウジュ	75	NT	VU					
	キク科	カワランジン	76		EN					水際など氾濫原の植物として、水辺や水田周辺に生育する。
		フジバカマ	77	VU	EN					
ミクリ科	ミクリ	78	NT	VU				止水域の浅瀬を生育環境とする。		
ウキゴケ科	イチョウウキゴケ	79	CR+EN	CR+EN				水田や池の水面に浮遊する。		
合計	10類60科79種	-	17種	79種	11種	12種	2種	20種	43種	45種

1: 環境省植物目録(1987)及び日本産野生生物目録(脊椎動物編・無脊椎動物編)、原色日本蕨苔類図鑑(保育社(1994)参照)。
 2: 環境省レッドデータブック(環境省RDB)植物、(2000年)、哺乳類(2002年)、爬虫類・両生類(2002年)、鳥類(2002年)、無脊椎動物(2000年) 5
 <カテゴリー>
 絶滅(EX) 埼玉県「平成8年度 川島郡市林(仮称)自然環境調査報告書 平成9年3月」
 絶滅危惧 類(CR+EN) 絶滅危惧 A類(CR) 絶滅危惧 B類(EN) 絶滅危惧 類(VU) 荒川上流河川事務所「平成14年度 荒川生態系モニタリング調査業務報告書 平成15年3月」
 準絶滅危惧(NT1, NT2) 荒川上流河川事務所「平成15年度 荒川生態系モニタリング調査業務報告書 平成16年3月」
 情報不足(DD) なお、平成8年度調査では、上池は調査されていない。
 絶滅のおそれのある地域個体群(LP) 埼玉県「平成8年度 川島郡市林(仮称)自然環境調査報告書 平成9年3月」
 3: 埼玉県レッドデータブック(動物編:2002年、植物編:1997年)(埼玉県RDB)、カテゴリーの分類は環境省レッドデータブックを参照。
 但し動物編:地域別危惧種(RT)、また、動物は、地域別の低地帯(荒川以西)で選出されている種を選定
 鳥類:()内は越冬鳥
 鳥類以外の種:()内は今まで荒川以西での確認がなく、カテゴリー化されていないため大宮台地のカテゴリーを参照し選定した。
 4: 市史編集者、観察会開催者、猟師の方等、地元生物に詳しい方へのヒアリング調査による。